

事務局だより

1. 昭和59年度総会

昭和59年9月21日（富士短期大学における第51回大会時に開催）

総会議題

1. 開 会
2. 議長選出
3. 事業報告
 - (1) 会員異動状況
 - (2) 会費納入状況
 - (3) 常任運営委員会

(4) 公開シンポジウム開催について

(5) 機関誌発行について

(6) 学会案内の発行について

4. 日本学会会議関係の諸報告
5. 心理学諸学会間連絡会報告
6. 国際心理学記念基金運営委員会報告
7. 第50回大会会計報告
8. 昭和58年度決算
9. 昭和59年度予算
10. 名誉会員推薦について
11. 次期大会開催校について
12. その他
13. 閉 会

昭和58年度決算報告

収 入			支 出		
費 目	実 行 額	予 算 額	費 目	実 行 額	予 算 額
前年度繰越金	365,820	365,820	第50回大会費	300,000	300,000
学 会 費	2,989,500	3,150,000	シンポジウム費	33,790	70,000
過 年 度 分	(536,000)	(700,000)	印 刷 費	1,303,530	1,550,000
本 年 度 分	(2,453,500)	(2,450,000)	機 関 誌	(1,214,630)	(1,350,000)
雑 収 入	62,220	20,000	そ の 他	(88,900)	(200,000)
			通 信 費	501,860	500,000
			機関誌, 名簿	(175,750)	(300,000)
			一 般	(326,110)	(200,000)
			さいころじすと	89,702	80,000
			諸学会連絡会費	11,000	20,000
			運営委員会費	103,000	100,000
			事務局費	449,840	400,000
			アルバイト費	75,000	50,000
			積立金(名簿)	100,000	100,000
			予 備 費	61,000	365,820
			次年度繰越金	388,818	0
合 計	3,417,540	3,535,820	合 計	3,417,540	3,535,820

決算報告を承認致しました

昭和59年9月17日

大久保康彦 印

鳴澤 實 印

昭和59年度予算

収 入		支 出	
費 目	予 算 額	費 目	予 算 額
前年度繰越金	388,818	第51回大会費	400,000
学 会 費	3,000,000	シンポジウム費	50,000
（過年度分	(550,000)	印 刷 費	1,450,000
（本年度分	(2,450,000)	（機 関 誌	(1,250,000)
930×0.75		（そ の 他	(200,000)
×3500=		通 信 費	500,000
雑 収 入	50,000	（機関誌・名簿	(250,000)
		（一 般	(250,000)
		さいころじすと費	90,000
		諸学会間連絡会費	20,000
		運営委員会費	100,000
		事務局費	400,000
		アルバイト費	70,000
		積立金(名簿)	200,000
		機関誌編集費	20,000
		予 備 費	138,818
計	3,438,818	計	3,438,818

日本応用心理学会第50回大会決算報告

大会準備委員会事務局
(金沢大学文学部)

<収 入>

費 目	金 額(円)	内 訳
学会本部よりの補助	300,000	
大 会 参 加 費	885,000	正会員(予約) 3,500円×151名=528,500円 正会員(当日) 4,000 × 66 =264,000 臨時会員 4,000 × 22 = 88,000 学生会員 500 × 10 = 5,000
論 文 集 代 金	424,000	(120名+1機関)
論 文 掲 載 料	439,000	(125名)
懇 親 会 費	234,000	(78名)
広 告 料	105,000	(プログラム掲載9件)
寄 付 金	100,000	(県・市より2件)
雑 収 入	4,800	(利子, プログラム売上等)
計	2,492,300	

<支 出>

費 目	金 額(円)	内 訳
印 刷 費	744,200	(1, 2号通信, プログラム, 論文集等)
謝 金	84,000	(記念品代等)
懇 親 会 費	352,040	
通 信 郵 送 費	423,860	
アルバイト学生謝金	391,950	
大 会 運 営 費	200,656	(会場設営費を含む)
準備委員会会議費	100,930	
事 務 費	50,100	(文具, 消耗品等)
交 通 費	125,000	(連絡用を含む)
雑 費	19,564	(少額支出等)
計	2,492,300	

・昭和58年度決算について 監査委員の鳴沢實, 大久保康彦両氏の監査を受け, 運営委員会ならびに総会において承認された。

・昭和59年度予算案について 運営委員会ならびに総会において, 原案通り承認された。

・第50回大会決算について 開催校の金沢大学より報告があり, 運営委員会ならびに総会の承認を得た。

・名誉会員について 次の4氏が推薦され, 異議なく承認された。板倉善高, 金子秀彬, 太城藤吉, 西部徹一

・次期開催校について 岩手大学人文社会学部において, 鬼澤貞教授を大会委員長として行うことに決定。

鈴木康平 ○高嶋正士 ○高橋たまき
高橋哲也 竹内常雄 田中富士夫
手塚太郎 中川大倫 中原弘之
○中村昭之 ○永丘智郎 長塚康弘
長山泰久 新村 豊 ○西岡 昭
○長谷川孫一郎 林 潔 日高英行
○平野 馨 藤原元一 細江達郎
○正田 亘 松井資夫 ○松村康平
松山安雄 真仁田昭 丸山欣哉
南 博 ○宮本 昇 宮本美沙子
○森 重敏 森清善行 (50音順)

監査委員 大久保康彦 鳴 澤 實
心理学諸学会間連絡会委員 高橋たまき
村井健祐
機関誌編集委員長 正田 亘
日本学術会議委員 斎藤幸一郎
国際心理学会記念基金運営委員 恩 田 彰

2. 今期の運営委員および諸役員

(任期2年: 昭和59年9月23日より昭和61年の大会終了日まで)

会 長 鬼 澤 貞 (岩手大学)
副会長 村 中 兼 松 (富士短期大学)
事務局長 村 井 健 祐 (日本大学)
幹 事 土 屋 明 夫 (日本大学)
運営委員 (○印は常任)

秋葉英則 安達喜美子 ○安倍 淳吉
新井康祐 ○石毛長雄 石津 元
稲毛教子 遠藤辰雄 大島貞夫
○太田垣瑞一郎 ○大塚博保 ○大村政男
○大脇三恵子 ○岡村一成 尾形 健
○奥沢良雄 長田一臣 ○恩 田 彰
片山義弘 金子 保 亀井一綱
○神作 博 岸田 博 ○清宮栄一
久米康一 黒田正典 黒田淑子
○越河六郎 駒崎 勉 ○斎藤幸一郎

3. 常任運営委員会記録 (前号迄掲載以降のもの)

1984年9月18日

出席者: 村中, 安倍, 石毛, 大塚, 大村, 大脇, 奥沢, 恩田, 太田垣, 清宮, 越河, 斎藤, 高嶋, 高橋, 中村, 永丘, 長谷川, 平野, 宮本, 森 (村井, 土屋)

報告事項: (1) 第51回大会準備状況について (2) 名誉会員推薦について (3) 学術会議関係事項について (4) 国際応心大会(1990)日本開催案について (5) 事務局諸報告

協議事項: (1) 公開シンポジウムの件 (2) 新入会員審査の件

1984年11月10日

出席者：村中，大脇，太田垣，神作，清宮，越河，斉藤，高橋，中村，永丘，平野，正田，宮本，森（村井，土屋）

報告事項：(1) 村中第51回大会準備委員長より挨拶ならびに諸報告 (2) 常任運営委員会改選の途中経過について (3) 公開シンポジウムについて (4) 学術会議関係事項について (5) 第53回大会（昭和61年度）開催校交渉経過について (6) 事務局諸報告

協議事項：(1) 運営委員推薦の件（田中富士夫，尾形健，細江達郎の3氏を了承） (2) 新入会員審査の件

1985年1月29日

出席者：鬼澤，村中，大塚，大脇，岡村，奥沢，恩田，太田垣，清宮，越河，高嶋，中村，永丘，正田，松村，森（村井，土屋）

報告事項：(1) 常任委員選挙結果について（詳細は別項の通り） (2) 第52回大会準備状況について (3) 第53回大会開催校について (4) 事務局諸報告

協議事項：(1) 学術会議会員候補者および推薦人の件（推薦人として太田垣，村中両常任運営委員を決め，候補者については両氏と事務局長に一任する） (2) 昭和60年度公開シンポジウムのテーマの件 (3) 新入会員審査の件

1985年3月12日

出席者：村中，安倍，石毛，大塚，大脇，奥沢，恩田，太田垣，清宮，越河，斉藤，高嶋，高橋，中村，永丘，平野，松村，宮本，森（村井，土屋）

報告事項：(1) 第52回大会準備状況について (2) 第53回大会開催校について（明治学院大が受諾の方向で検討中） (3) 学術会議会員候補について（本学会より本明寛氏を推したい旨，太田垣，村中両推薦人より報告あり了承）

協議事項：(1) 公開シンポジウムのテーマの件（城西大駒崎勉氏に企画を依頼する『いじめの問題』） (2) 学会活動今後の方針の件（魅力ある学会活動，学会活性化をどうするか） (3) 新入会員審査の件 (4) その他（入会案内の葉の件，第54回大会開催校の件等）

1985年4月23日

出席者：鬼澤，村中，安倍，石毛，大塚，大村，大脇，岡村，奥沢，恩田，太田垣，神作，清宮，越河，斉藤，高嶋，高橋，中村，長谷川，森（村井，土屋）

報告事項：(1) 第52回大会準備状況について (2) 諸学会間連絡会について (3) 第53回大会開催校について（明治学院大学が正式に受諾，大会準備委員長は尾形健教授，期日・場所等未定） (4) 事務局諸報告

協議事項：(1) 公開シンポジウムの件 (2) 本学会の今後の活動方針の件（前回より継続） (3) 新入会員審査の件

1985年5月24日

出席者：鬼澤，村中，大塚，大村，岡村，太田垣，越河，斎藤，高橋，中村，長谷川，平野，正田，松村（村井，土屋）

報告事項：(1) 第52回大会準備状況について (2) 学術会議会員候補について（本会よりの推薦者本明寛氏が当選） (3) 事務局諸報告

協議事項：(1) 公開シンポジウムの件（駒崎勉氏の原案を了承，別項参照） (2) 昭和59年度決算，昭和60年度予算案の件（常任運営委員会として承認） (3) 学会運営検討小委員会（仮）発足の件（前々回，前回からの懸案事項，小委員メンバーとして，大塚博保，正田亘，越河六郎，大脇三恵子，岡村一成の各常任運営委員，村井健祐事務局長の6名，他に幹事として土屋明夫学会幹事，学会運営全般にわたる諸問題を検討する） (4) 新入会員審査の件

1985年6月29日

出席者：鬼澤，村中，石毛，大村，大脇，岡村，奥沢，恩田，太田垣，神作，清宮，越河，斎藤，高橋，中村，永丘，長谷川，宮本，森（村井）

報告事項：(1) 公開シンポジウムについて（別項参照） (2) 第52回大会準備状況について (3) 第53回大会準備状況について (4) 学術会議心研連委員交替について（別項参照） (5) 事務局諸報告

協議事項：(1) 運営検討小委員会の件（越河委員より第1回会合の報告あり） (2) 名誉会員推薦の件（鬼澤，太田垣，斎藤，永丘，森氏に一任） (3) 新入会員審査の件 (4) その他（臨教審に関して森委員より話題提供あり）

4. 一般活動状況，事務局諸報告

(1) 第51回大会（昭和59年9月21，22日，富士短期大学，大会準備委員長村中兼松教授）において開催，盛会裡に終了

(2) 日本学術会議法の一部改正にともなう一連の新規登録手続を，昭和59年9月より昭和60年5月にわたって行なった。

(3) 「応用心理学研究第9号」が出来上り，会員および関係機関に送付（昭和59年10月）

(4) 昭和59年度公開シンポジウムは，清宮栄一常任運営委員を司会者として開催（『身体障害者の環境を考える』，於日本大学法学部，昭和59年11月）成功裡に終了

(5) 常任運営委員の改選を行った(任期2年, 昭和59年11月), その結果, 新委員として岡村一成氏(富士短期大学)が加わり, 他に金子秀彬氏が名誉会員推薦を機に辞退した以外は全員再選された。開票立会人は, 大村政男, 太田垣瑞一郎, 斎藤幸一郎の各常任運営委員(今期の運営委員および新常任委員は別項参照)

(6) 学術会議心理学研究連絡会委員が, 太田垣瑞一郎氏から, 斎藤幸一郎氏に交替(昭和60年6月)

(7) 昭和60年度公開シンポジウムは, 駒崎勉運営委員を司会者として開催(『いじめの問題をめぐって』, 於日本大学文理学部, 昭和60年6月), TVニュース2社の取材等もあって盛況裡に終了(詳細は機関誌11号に掲載予定)

(8) 学会案内書(入会の栞, 1985版)を改訂し, 会員に送付(昭和60年7月)

5. 第51回大会発表状況

(昭和59年9月21, 22日, 富士短期大学, 大会委員長村中兼松)

(1) 発表件数:	研究発表	123件
	シンポジウム	2件
	自主シンポジウム	1件
	公開講演	1件
(2) 大会参加者数:	正会員	243名
	名誉会員	12名
	臨時会員	20名
	学生会員	124名
	招待者	20名
	講演・シンポ関係(非会員)	6名
	計	422名

(3) 発表者変更: 1件

- ・(教育I) WISC-Rによる児童の性格診断の方法の研究 XVIII—教育相談で考えられる WISC-R テストの問題と限界点—
清水とも子(児玉教育研究所)→横田愛子(児玉教育研究所)

(4) 連名者削除: 4件

- ・(人格I) I 高校生の対人関係—TATを用いて—
○門田寿秋(岐阜精神病院), 丸井澄子(岐阜大学), 北瀬扶美子(黒野病院)のうち丸井澄子を削除
- ・(人格I) II 中学生と高校生の対人関係の比較—TATを用いて—
○北瀬扶美子(黒野病院), 丸井澄子(岐阜大学), 門田寿秋(岐阜精神病院)のうち丸井澄子を削除

- ・(産業・職業IV) 経歴データのDB化—1.経歴情報の分析要求とコーディング体系—

○松本純平(雇用職業総合研究所), 松本真作(同), 中島史明(同), 堀田千秋(同)のうち中島史明・堀田千秋を削除

- ・(産業・職業IV) 経歴データのDB化—2.経歴情報解析のためのシステム—

○松本真作(雇用職業総合研究所), 松本純平(同), 中島史明(同), 堀田千秋(同)のうち中島史明・堀田千秋を削除

(5) 発表取消: 3件

- ・(産業・職業I) 職業評価の方法に関する研究—MICRO-TOWER ワークサンプルについて(3)—
吉光 清(国立職業リハビリテーションセンター)

- ・(働く女性) 高度情報化社会と働く女性

○墨岡 孝(成城墨岡クリニック), 成田 猛(同)
(注) 討論不参加により発表取消

- ・(働く女性) CA 化と働く女性

○両角 智(成城墨岡クリニック), 成田 猛(同), 墨岡 孝(同) 以上

6. 新入会員, 住所変更, 退会者(前号掲載分以降の者, 順不同)

新入会員

上 垣 博 和
山 田 泰 子

佐 藤 文 子

鈴 木 光 枝
鬼 澤 貞

永 野 光 朗

君 山 由 良

相 場 敏 江

川 中 なほ子

中 里 弘

水 田 恵 三

水 田 由美子

竹 谷 誠

柳 平 彬

浜 田 卓 子

長 江 庸 泰

西 河 正 行

高 木 晴 夫
雫 石 礼 子
小 嶋 明 子
川 島 真

武 井 楨 次
糸 田 尚 史

石 田 幸 平
山 口 浩

今 城 周 造
竹 田 浩 子

菅 野 幸 宏
梶 塚 隆 光

諸 富 隆
金 村 美千子

大 沢 博
菅 原 正 和
太 田 芳 男
執 印 孝 子
洞 内 祥 次
湯 浅 豊
加 藤 孝 義
堤 和 正
藤 澤 真喜雄
小 林 裕
土 屋 良 一
矢ヶ崎 誠 治
前 田 智 男
小 野 直 広
桂 島 喜桔雄
大 橋 英 寿
林 文 俊

柴 山 茂 夫
横 井 修 一
白 石 順 吉
田 中 潜次郎
丸 山 久美子
山入端 津 由
豊 嶋 秋 彦

塩 見 邦 雄
大 江 篤 志
杉 本 千代子

高 橋 由美子

渡 辺 文 子
坂 上 清 美
出 口 比奈子
菊 池 清 勝
小 杉 正太郎
河 西 真北子
田 中 堅一郎
金 兌 煥
照 井 美 雪

加 部 祐 三
千 葉 典 子
田 屋 薫
米 丸 隆 一

小 川 圭 子
南 尾 みつ子
松 岡 和 生

川 瀬 隆 千
真 覚 健
石 山 尊 文
山 下 ひろみ
小 島 久美子

吉 田 しのぶ

桜 井 研 二
平 田 忠
石 田 敏 郎
近 石 りえ子
加 藤 健 二

武 田 篤
皆 川 州 正
富 塚 孝

半 田 善 三
三 井 利 幸

川 村 司

小 林 廉一郎

仁 平 義 明

渡 部 章

境 邦 愛

陸 田 健一郎

武 田 悦 夫

高 橋 明比古

菅 野 理樹夫

住所変更

深 沢 伸 幸

矢 内 文

大 野 弘

大 塚 秀 治

守 屋 太 門

千 あけみ

善 明 宣 夫

鈴 木 順 一

青 木 孝 安

堀 毛 一 也

新 田 茂

板 井 修 一

原 田 陽 一

岸 本 陽 一

中 川 大 倫

久 米 康 一

宇佐見 敏 夫

松 野 凱 典

内 藤 哲 雄

江 幡 玲 子

舟 木 哲 朗

藤 田 政 義

熊 坂 敬 典

荻 須 隆 雄

三 宅 守 一

岡 部 健

小 田 智 子

柳 井 修

市 原 茂

佐 藤 研 司

前 田 あけみ

(旧姓：千)

松 本 真 作

阿久津 洋 巳

大 木 昭 臣

長 田 一 臣

大 谷 哲 朗

神 沢 創 男

豊 原 恒 吾

松 村 省 幸

松 田 弘 健

三 村 健

斎 藤 永 子

松 山 似 子

谷 口 平 一

荒 砂 正 名

今 城 周 造

糸日谷 秀 幸

大 石 史 博

大 田 昭 夫

青 木 民 雄

臼 井 博 昭

熊 坂 敬 典

堀 毛 一 也
新 井 康 祐

大 道 安 廣
森 川 泰 寛

板 津 裕 己
酒 木 保

前 田 基 成
茂 木 茂 八
竹 田 浩 子

小 尾 隆 一
向 井 希 宏

遠 藤 さと子
(旧姓：川端)
菊 池 哲 彦
内 山 元 夫

桑 原 浩

織 田 圭 子
長谷川 孫一郎
菅 野 幸 宏
角 隆 司
中 島 義 明
本 城 千恵子

佐 藤 信 茂
相 馬 朝 江

金 田 フ ミ
君 山 由 良

退会者

片山信一，小谷善一，根石正溥，代 喜一，進藤波男，田中麗之助，藤田洋一，大平 博，小川俊樹，坂内功，近藤 元，竹原一雄，次良丸睦子，萩生田忠昭，白石郁子，田辺由紀子，小田智子，熊倉 弘

7. 寄贈文献 (前号掲載以降のもの)

学会事務局に，つぎのような雑誌資料等が寄贈されておりますのでご利用下さい。

<定期刊行物>

放送研究と調査 (NHK 放送文化調査研究所)

1984, Vol. 34, No. 4~
母子保健情報 (恩賜財団母子愛育会)
1984, Vol. 9~
科学警察研究所報告・防犯少年編 (科学警察研究所)
1984, Vol. 25, No. 1~
生活心理分析 (GAUSS 生活心理研究所)
1984, Vol. 27~
関係学研究 (関係学研究編集委員会)
1984, Vol. 12, No. 1~
IATSS Review (国際交通安全学会)
1984, Vol. 10, No. 1~
IATSS Research (国際交通安全学会)
1984, Vol. 8~
鉄道労働科学 (日本国有鉄道労働科学研究所)
1984, Vol. 38~
オレンデレポート (NTT 広報部)
1984, No. 4~
テレトピア (NTT 広報部)
1984, No. 4~
基礎心理学研究 (日本基礎心理学会)
1984, Vol. 2, No. 2~
指導と評価 (日本教育評価研究会)
1984, Vol. 30, No. 4~
人事試験研究 (日本人事試験研究センター)
1984, No. 111~
化粧文化 (ポーラ文化研究所)
1984, No. 11~
産業安全研究所年報 (労働省産業安全研究所)
1983
音楽療法研究年報 (日本音楽心理学音楽療法懇話会)
1983, Vol. 12~
沖中記念成人病研究所年報 (沖中記念成人病研究所)
1984, Vol. 10~
産業安全に関する研究成果概要集 (産業安全に関する
国立研究機関連絡会議)
1984, No. 3~
国立身体障害者リハビリテーションセンター研究紀要
(国立身体障害者リハビリテーションセンター)
1984, Vol. 5~
人文学研究所報 (神奈川大学人文学研究所)
1983, Vol. 17~
人文研究 (神奈川大学人文学会)
1984, No. 88~
研究紀要 (鹿児島女子大学)
1984, Vol. 6, No. 1~

臨床心理学の諸領域（金沢大学心理学研究室）

1984, No. 3～

職業訓練大学校紀要（職業訓練大学校）

1984, Vol. 13B～

筑波大学心理学研究（筑波大学心理学系）

1985, No. 7～

東京大学教育学部紀要（東京大学教育学部）

1984, Vol. 23～

名古屋大学教育学部紀要（名古屋大学教育学部教育心理学教室）

1983, Vol. 30～

Hiroshima Forum for Psychology（広島大学教育学部心理学研究室）

1984, Vol. 9～

明星大学心理学年報（明星大学心理学研究室）

1984, Vol. 2～

早稲田大学システム科学研究所年報（早稲田大学シス

テム科学研究所）

1984, Vol. 15～

早稲田心理学年報（早稲田大学文学部心理学会）

1984, Vol. 16～

東京学芸大学紀要・第1部門教育科学（東京学芸大学紀要出版委員会）

1984, Vol. 35～

心理学関係研究文献資料集（岐阜大学教育学部心理学研究室附属カリキュラム開発研究センター）

1984, No. 143～

山梨大学教育学部研究報告（山梨大学教育学部）

1984, Vol. 34～

8. 訃 報

次のかたがたがお亡くなりになりました。謹しんでご冥福をお祈り致します。 高木尚一，葛谷隆正，田村勉